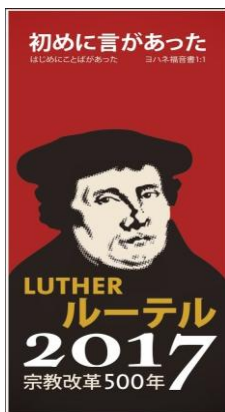


第 22 回東教区宣教フォーラム

第 5.5 回準備委員会議事録

(主題講演者・松本義宣牧師との懇談会)



日 時 : 2015年5月18日 17:00~18:30

場 所 : 市ヶ谷センター、2F 会議室

出席者 : 津川栄一(市ヶ谷)、木村 猛(委員長・保谷)
8名 松浦 稔(書記・大岡山)、鳥飼一成(津田沼)、
田村忠夫(藤が丘)、森川正明(書記。東京池袋)
長谷川晃司(副委員長・東京)

欠席連絡: 江口再起(アドバイザー・小岩)、
八木久美(むさしの)

- 1 木村委員長の開会の祈り
- 2 今回の宣教フォーラムの趣旨説明、及び 懇談内容(順不動)
 - ・ルターの提言の後に礼拝において変わったこと、信徒の信仰生活について講演願ひ、現在に続く、ルーテル教会の礼拝-式文と現在、取り組んでいる新・式文にどのように生きているかを話していただくことにした。
 - ・レジュメを作成願ひ、当日のプログラムに掲載する。
 - ・報告書に講演の全体を掲載して、広く教区内の信徒と共有したいので録音から文字起こしを検討する。
 - ・他地区での新式文解説の講演会では、60分の概要説明→30分ほどの実演を交えて解説した。今回は解説会でないので、主題講演と実際の礼拝の時間は分ける。
 - ・新式文という言い方をしているが、礼拝の精神は新しくなったり、変わるわけではない。ローマカトリックのミサを廃止したわけではなく、引き継いでいる。
 - ・チャントのメロディーについて
ワールドカフェで、メロディーの不慣れによる批判的な意見に流されないようにしたい。そのため、現行のものを使う方がよいのではないか。
新しいものを使って、あえて、混乱を起こして、意識できる方が良いのでは。
 - ・会衆にとって、変わった印象が強いのはメロディ。
 - ・細部の言葉が変わっているかもしれないが、現代の神学に基づいていると理解したい。
 - ・式文委員会は新しい式文が追加されるという理解。現行を使うか、新式文を使うかは各教会の判断。

- ・メロディは式文委員会から音楽の専門家に依頼して、数種類のメロディを準備している。礼拝で大事なものは言葉-文章で、メロディは時代、民族などの環境に応じてゆくもの。
- ・講師見解→これまでのメロディを使うのであれば、今回は文章(言葉)だけで進めても良いのではないか。
- ・A式文のメロディにこだわらなくても良い。このメロディは1920年代に米国で使われ始めたもの。今でも使っているのは日本くらいようだ。

- ・式文のメロディについては、次回の準備委(6月13日)に話し合う。
- ・当日の式文は準備委員会で作成してプログラムに掲載する。

- ・主題講演のレジユメの概要を次回会議(6/13)までに頂く。ワールドカフェの進行役への研修の為。
プログラムに掲載するものは7月1日に印刷前に頂く。

- ・ルターを歌おう
- ☑チュック 教会讃美歌(緑色表紙も2000年小改訂版)を使用。
- ☑ルター没前年発行の「ルター全曲集」から楽譜をコピーして、教会讃美歌と対比するのも興味ある。
- ☑ミサ曲のように、ルターが礼拝に使うために作った曲もある。
- ☑今回の礼拝で使わなかった曲を4~5曲用意して時間に合わせて取捨選択する。

- ・ルターは「礼拝は教育」とも言っている。
礼拝に招かれ、派遣され、また、招かれて戻る(春キャンでは「お帰り、いってらっしゃい」というキャッチコピーを使用したようだ)
- ・「るうてる」に昨年4月から掲載されている式文委員の連載も参照すると良い。

- ・松本講師への問い合わせは、神戸教会まで(連絡さきは教会手帳参照)

3 閉会

全員で主の祈りを祈り閉会